2016年（平成28年）6月24日　金曜日

(13)　経　済　2版　（第三種郵便物認可）

山梨日日新聞

「害虫被害の桃」判別

山梨大が開発　18年導入めざす

山梨大は害虫・モモシンクイガの被害に遭っている桃を判別する装置の開発に取り組んでいて、23日、山梨市内で実証実験を行った＝写真。桃にエックス線を照射して害虫被害を判別する仕組み。同大が県などと連携して2015年に開発に着手し、18年からの導入を目指している。

モモシンクイガは桃などに寄生するガの一種。10年に台湾に輸出した県産桃からモモシンクイガが見つかり、一時輸出が禁止された。以降、選果員が目視で確認しているが、卵や幼虫が食べた穴は小さくて見づらく、検査は大きな負担となっていた。

装置は、同大工学部情報メカトロニクス工学科の小谷信司教授らが開発を進める。桃を傷つけないよう特殊な緩衝シートの上に載せ、エックス線を照射。複数方向から桃の画像を処理し、被害を確認する。被害の無い桃は先のレーンに進み、被害が見つかった桃は戻される仕組み。23日に後屋敷直販センターで実施した実証実験では地元農家ら約70人が参加し、装置の説明などを聞いた。

現時点では、モモシンクイガの卵や若い幼虫までは見つけられず、検査に1個あたり25秒程度かかる。小谷教授は「判別の精度と検査のスピードを上げ、2年後には装置の実用化を目指したい」と話している。

〈笠井憂弥〉

JAフルーツに桃輸出拠点

直販センター完成

山梨市

JAフルーツ山梨（中沢昭組合長）が山梨市三カ所に整備していた「後屋敷直販センター」が完成し23日、竣工式が行われた＝写真。贈答用として使う果実の箱詰め作業や、桃の海外輸出の拠点として活用していく。

同センターは、「かのいわ中央共選所」に統合された旧後屋敷共選所の施設を利用して整備した。7月1日からの稼働を予定している。

同JAによると、センターでは選果された桃やブドウを、スーパーや量販店向けに小さな箱に詰め替える作業や、海外に輸出する桃の検品作業などを専門的に行う。保冷庫をはじめ、空気の力で桃の毛や害虫を取り除くことができるエアー集じん作業場などを設けている。

竣工式には地元農家ら関係者約70人が出席。神事を行った後、除幕をして完成を祝った。中沢組合長は